

ペメトレキセド+カルボプラチン療法


★今日の点滴のスケジュール

点滴開始前にイメンド(アプレピタント)の服用をして吐き気を予防します。

	薬の名前	点滴時間	薬の効果
1	デキサメタゾン (商品名:デカドロン) パロノセトロン (商品名:アロキシ)	15分	アレルギー症状や、吐き気を予防する目的で使います。
	ペメトレキセド (商品名:アリムタ) _____mg	10分	がん細胞の増殖を抑える薬です。
	カルボプラチン (商品名:パラプラチン) _____mg	60分	がん細胞の増殖を抑える薬です。

*点滴終了後、針を刺している部分の炎症防止のため生食 50mL を点滴します。

★1クールスケジュール

薬の名前	1日目	2~21日目
アリムタ カルボプラチン		お休み

お休み期間について

左の表の21日間を1回の治療として繰り返し行います。
症状や経過に合わせてお休み期間は変わります。

アリムタの副作用を軽減する目的で、

フォリアミン(葉酸)の服用と、

ビタミンB12の注射(およそ9週毎に1回)を続けます。

※サプリメントを服用される場合は、事前に医師または薬剤師にご相談ください。

★点滴当日に注意していただきたいこと

- ・点滴部位に異常な痛みを感じたり、点滴部位の周囲が腫れてきたり、かゆみや不快を感じたら早めに医療スタッフまでお知らせください。(血管外に点滴が漏れている可能性があります。)
- ・点滴中に気分が悪くなったり、何か気になる症状が現れた場合には早めに医療スタッフまでお知らせください。

★特に注意したほうがよい副作用

間質性肺炎

まれに間質性肺炎(肺胞の壁に炎症が起こる病気)が起こることがあります。炎症が進むと命に危険が及ぶ恐れがあります。早期発見が一番の治療ですので、息切れや呼吸のしにくさ、咳や発熱があった場合にはすぐにご連絡ください。



食欲不振・吐き気・嘔吐・味覚の変化

投与後から現れることがあります。症状と時期に合わせて、吐き気止めのお薬を使い、対応します。つらい時は我慢せずにお知らせください。

※吐き気止めの影響で便秘になることがあるので、必要に応じて下剤を使用して下さい。

白血球の減少(点滴終了2週間後の頃)・貧血・出血

白血球が減少する事があります。白血球が減少すると病原菌に対抗できず、感染症にかかりやすくなります。日々の手洗い・うがい・マスクなどの感染対策をしてください。また、抗がん剤が血液を作る細胞に作用するため、赤血球が減少し、貧血になったり、血小板が減少して出血しやすくなることもあります。



脱毛

個人差はありますが、脱毛が生じます。治療開始後2～3週間ほどで脱毛が始まる可能性があります。治療が終わると半年程度で元通り髪の毛が生えてきます。

下痢

下痢が起こることがあります。軽度の場合は整腸剤などを使用し、重度の場合は下痢止めの薬を使用することもできます。水分補給を心がけてください。

発熱・疲労感・倦怠感・口内炎などの症状が現れることがあります。

ご自宅で以下の症状が現れた場合は必ずご連絡ください。

- ・ 38度以上の発熱があるとき
- ・ 1日の半分以上を寝たきりで過ごさなければならないほどのだるさがあるとき
- ・ 吐き気止めの内服をしても、1日6回以上の嘔吐、または水分をとれないほどの吐き気があるとき
- ・ 1日7回以上の下痢があるとき

上記以外でもご自宅でいつもと違うと感じた時には我慢することなく、以下の連絡先にご連絡ください。

電話：0476-22-1500（代表）



※ご連絡の際はお手元に診察券をご用意ください。

